

三和段ボール工業株式会社



事例 省エネ診断で工場のエネルギー使用状況を把握！
客観的な提案を踏まえて改善に取り組む！

- 所在地: 倉吉市上井52番地
- 代表取締役社長: 森英司
- 事業概要: 各種段ボールケース及び
個装箱の企画・製造・販売



Q. 省エネ診断を受けたきっかけは。

A. 省エネ診断機関から勧められたのがきっかけです。弊社ではこれまでも、照明をLEDに切り替えるなど、省エネに向けた取り組みは行ってきましたが、工場全体でどの程度エネルギーを使っているのか、どれくらいムダがあるのかまでは把握できておらず、これまでの取り組みが本当に効果を上げているのか分からない部分がありました。そこで、一度客観的に評価してもらいたいと思い、診断を受けることにしました。

Q. 診断にあたって、どのような準備をされましたか。

A. 電気料金のデータや灯油の使用量、建物の図面、設備の概要が分かる資料などを用意しました。現場の確認は1日で終わり、準備や対応についてはそれほど大きな負担には感じませんでした。



鳥取県・企業の脱炭素経営促進事業 / 県内企業の取り組み事例

支援制度やその他の事例は
ホームページをご確認ください



Q. 診断後には、どのようなアドバイスがありましたか。

A. 冬場は灯油による暖房を使っていましたが、作業の関係で工場の扉や窓を開けたままにしていることが多く、空調のエネルギーロスが大きいと指摘されました。そのほかにも、第三者だからこそできる客観的な提案をいただきました。



▲導入したガス空調設備

Q. 診断を受けて良かったと感じる点は。

A. 第三者の客観的な視点で診断してもらえたことで、自分たちでは気付かなかった点がはっきりと見えるようになりました。数字で現状を示した上で、具体的な改善策を提案してもらえたのは、とてもありがたかったです。

空調については、以前から更新を検討していたこともあり、2025年6月に灯油ボイラーを廃止してガス空調設備を導入しました。



▲松本常務(右)と総務部の谷口さん

省エネ診断による提案内容(一部)

提案内容	種類	CO ₂ 削減量(t-CO ₂ /年)	費用削減量(万円/年)
出入口シャッター活用による空調負荷低減	設備投資	9.0	49
コンプレッサー吐出圧力低減	運用改善	0.2	2
エア漏れ箇所の補修	運用改善	0.3	2
空調の設定温度の緩和	運用改善	1.0	7
遮熱シートの導入	設備投資	1.4	7
合計		11.9	67

活用した補助金・支援制度: 資源エネルギー庁 地域エネルギー利用最適化取組支援事業(省エネお助け隊)

